

～ 先端科学技術の研究開発推進、および新たな社会経済基盤の創出に向けて～

御社でご興味・ご関心のある技術分野はございませんか？

研究会	活動概要
フォトンクス技術フォーラム (光情報技術研究会・次世代光学素子研究会) 座長：一岡 芳樹(大阪大学 名誉教授)	フォトンクス技術に関する情報交流と共同研究開発プロジェクトを目指して活動。
過熱水蒸気新技術研究会 主査：宮武 和孝(帝塚山学院大学 教授)	食を中心としていた研究会から、過熱水蒸気の基礎、応用、製品情報を含めた研究会内容に拡張し、新たな用途展開へも視野に情報交換等を実施。
カーボンナノ材料研究会 主査：中山 喜萬(大阪大学 名誉教授)	カーボンナノ材料に関する技術開発動向、用途、ビジネス事例等の情報交流。
スマートグリッド/ スマートコミュニティ研究会 会長：鈴木 胖(地球環境戦略研究機関 関西センター所長)	エネルギーの供給側・需要側を包含した次世代のエネルギーシステムとなり得るスマートグリッド/スマートコミュニティについて、機能・システムとしての最適性、重要性を見定め、効果的なビジネス展開へと繋げる。
燃料電池・FCH部会 代表：江口 浩一(京都大学 教授) 稲葉 稔(同志社大学 教授)	各種の燃料電池、水素関連等の研究開発動向と燃料電池に関する政策等についての情報交換。
アドバンスト・バッテリー 技術研究会 会長：内本 喜晴(京都大学 教授)	高性能な新型二次電池(高性能リチウム電池、車載用リチウム電池、エネルギー変換・貯蔵デバイス)に関する技術情報の交流。
循環・代謝型社会システム研究会 主査：高岡 昌輝(京都大学 教授)	「静脈系システムの今後のあり方」をテーマに、各種温暖化対策技術、再資源化やエネルギー改修などの有効活用についての調査、各種再生可能エネルギー施設の視察等の実施。
水再生・バイオリッド研究会 主査：田中 宏明(京都大学 教授)	「下水道における水環境の安全・安心、資源の安定」をテーマに排水からの有価物回収技術とその動向調査、膜利用の最先端の動向調査、下水道革新的技術実証事業の視察の実施。
大阪都市再生部会 部会長：吉川 和広(京都大学 名誉教授)	情報交流活動としてフォーラムの開催、先進事例調査を行うとともに、大阪の都市格向上。都市魅力創造に関する調査研究を行いその成果を提言。
住環境システム部会 部会長：横山 禎徳	住宅関連業界関係者の情報交流を行うとともに、住宅市場活性化に不可欠な購入した住宅を資産として評価するシステムの検討。

研究会では、それぞれの技術分野の知見を得るため、

- ・ 講演会、フォーラム
- ・ 見学会 等

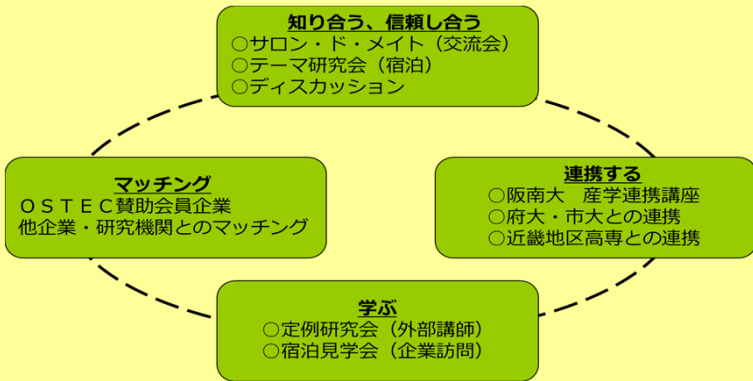
による調査活動や情報交流活動を行っています。
(写真は、講演会等の活動例です)



～高い技術力・製品開発力を持つ企業群を有する関西のポテンシャルをより活かすために～

マーケット&テクノロジー研究会 (MATE研究会)

MATE研究会は、関西を中心に業界を代表するオンリーワン企業、大学、研究機関、行政機関等による異業種・異業態企業の経営、ならびに技術交流の場として活動しています。



ATAC

(Advanced Technologist Activation Center)

民間企業の技術系OB、管理職OBによって構成されたATACは、企業の課題解決を促進するための経営改善、新製品開発、マーケティングなどのコンサルティング業務、ならびに各種講演会・セミナーを開催しています。

【コンサルティング実績】

中堅・中小企業の技術支援として、この約25年間に約220社、約800件の支援を行っています。

コンサルティング項目としては、

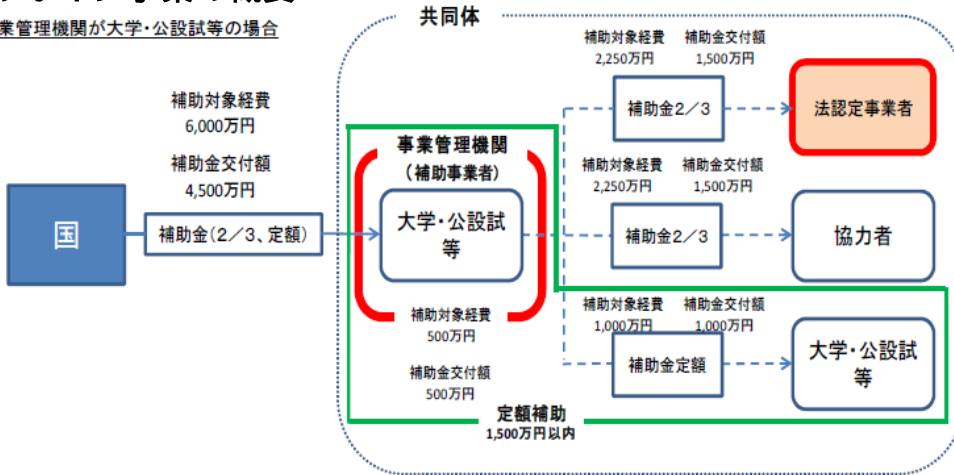
- ・経営課題
 - ・工場運営
 - ・技術開発、新製品開発
 - ・認定取得の支援
 - ・社員教育、研修
 - ・公的資金導入、マッチング
 - ・講演・セミナーの開催
- 等、多岐にわたっています。

研究開発支援：戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)等

サポイン：サポートインダストリーの略。近経局の中小企業研究開発支援制度です。

サポイン事業の概要

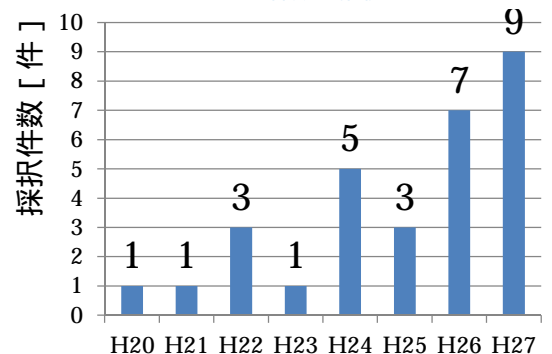
事業管理機関が大学・公設試等の場合



当センターは、ものづくり中小企業のための研究開発支援制度であるサポイン等の事業管理機関として認定を受けています。

採択後の事業管理だけでなく、支援策の勉強会の開催や個別の面談、ならびに採択に向けての提案支援等を行っておりますので、お気軽にご相談ください。

当センターが事業管理機関として採択されたサポイン件数の推移



大阪科学賞

大阪科学賞は、大阪府、大阪市、および大阪科学技術センターが、「創造的な科学技術の振興をはかり、21世紀における新たな発展と明日の人類社会に貢献する」ことを目的として、昭和58年度に創設されました。

顕著な研究成果を挙げられた若手研究者（50歳以下）に対して授与しています（毎年2名）。

大阪科学賞は、平成27年度で33回を数え66名の方が受賞されています。



H27年10月28日 第33回大阪科学賞 表彰式 (受賞者)

- 竹内 繁樹 氏 (京都大学大学院)
- 神谷 之康 氏 ((株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR))

「2012年(平成24年)ノーベル生理学・医学賞」を受賞された京都大学 山中伸弥氏は第25回(平成19年度)大阪科学賞受賞者。



大阪科学賞 記念講演会(平成19年11月2日)

ネイチャー・インダストリー・アワード

“自然の叡智”に関する研究を実施されている若手研究者に対する支援として「発表機会の創出」、「優れた研究を表彰することによる奨励」、ならびに「産業界と技術シーズのマッチング」を行うためのアワードで、実用化に繋げることで科学技術の発展と未来社会への貢献を目指しています。

自然の叡智に関する研究：

カワセミの形状に似ている「500系新幹線の先頭車両(従来よりも大幅な空気抵抗の低減)」や蚊の口を参考にした「痛みのない注射針」など、動植物が有する機能、構造をはじめとした自然界の機構などを産業技術への応用を目指した研究

